



GPS/JIPS 安全性要約書

1. 物質名 (SUBSTANCE NAME)

臭化水素 (CAS 番号 10035-10-6)

2. 物質の概要 (GENERAL STATEMENT)

高純度臭化水素は半導体のエッチング用に製造された高純度の液化ガスです。本製品は無色で刺激臭のある気体であり、エッチング用途で使用されることから、強い腐食性を示します。取扱う際は、保護具や換気装置を使用し、本製品との接触を避けて下さい。また、人体、特に肺等の呼吸器に対してに強い毒性があり、吸入するとめまい、息切れ、痙攣、昏睡といった呼吸器の機能障害を来す可能性があります。そのため、使用時には保護具を着用し、眼の保護、皮膚の保護、吸入の防止を図る必要があります。

3. 化学的特性 (CHEMICAL IDENTITY)

項目	内容
化学名又は一般名	臭化水素
製品名	高純度臭化水素
別名	ブロム水素、臭化水素(無水物)、臭化水素酸
CAS 番号	10035-10-6
その他の番号	官報公示整理番号 化審法:(1)-105 安衛法:既存化学物質
化学式等	HBr
出典・備考	株式会社レゾナック発行の SDS 第 3 項

4. 使用・用途と適用 (USES AND APPLICATIONS)

主な用途	本製品は、エッチングガスとして半導体材料に使用されます。
------	------------------------------

5. 物理化学的特性 (PHYSICAL/CHEMICAL PROPERTIES)

本製品は液化ガスの状態で輸送・使用されます。融点が低く、液化ガスと皮膚が接触すると凍傷を起こすことがあります。

物理状態	気体
外観	液化ガス
色	無色
臭い	刺激臭
pH	該当しない
融点/沸点	-86.9 °C / -66.7 °C
凝固点	データなし
引火点	不燃性
臨界温度	89.8 °C
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
可燃性	データなし
蒸気圧	2.31 MPa (21.1°C)
臨界圧力	8.51 MPa
相対蒸気密度 (20 °C)	3.33 kg/m ³
相対密度	気体比重 : 2.71 (Air=1) 液体密度 : 2.16 g/cm ³ (-66.7°C)

密度	データなし
相対ガス密度	データなし
溶解度	水: 204 g/100g (15°C)、有機溶剤: 酸素を含む有機溶媒には通常、発熱してよくとける。
n-オクタノール/水分配係数 (LogPow)	データなし
出典・備考	株式会社レゾナック発行のSDS第9,10項

6. ヒト健康影響 (HEALTH EFFECTS)

危険有害性項目	GHSによる分類結果および評価コメント
急性毒性(経口)	分類できない
急性毒性(経皮)	分類できない
急性毒性(吸入: 気体)	区分 3 吸入すると有毒 (気体)
急性毒性(吸入: 蒸気)	区分に該当しない(非該当)
急性毒性(吸入: 粉じん、ミスト)	区分に該当しない(非該当)
皮膚腐食性/刺激性	区分 1 重篤な皮膚の薬傷
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分 1 重篤な眼の損傷
呼吸器感受性	分類できない
皮膚感受性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分1臓器の障害 (呼吸器系)
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分1長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害 (呼吸器系、歯)
誤えん有害性	区分に該当しない(非該当)
出典・備考	株式会社レゾナック発行のSDS第2,11項
<p>・GHS (Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals): 世界的に統一されたルールに従い、化学品を危険有害性の種類と程度により分類し、その情報をラベルで表示し、安全データシートを提供したりするシステムです。</p> <p>・区分に該当しない(非該当): GHSで定義される物理的性質に該当しないため、当該区分での分類の対象となっていません。</p> <p>・区分に該当しない: GHS分類を行うのに十分な情報が得られており、分類を行った結果、GHSで規定するいずれの区分にも該当しないと考えられます。</p> <p>・分類できない: 分類を確定するための十分に信頼性のあるデータがなく、分類できません。</p>	

7. 環境影響 (ENVIRONMENTAL EFFECTS)

危険有害性項目	GHSによる分類結果および評価コメント
水生環境有害性 短期(急性)	分類できない
水生環境有害性 長期(慢性)	分類できない
オゾン層への有害性	分類できない
出典・備考	株式会社レゾナック発行のSDS第2,12項
環境中の運命・動態	
土壌中の移動性	追加情報なし
残留性・分解性	追加情報なし
生体蓄積性	追加情報なし
PBT/vPvBの結論	PBT(環境中に残留し、高い生物蓄積性と強い毒性を有する)、vPvB(環境中に非常に残留し、非常に高い生物蓄積性を有する)には該当しないと考えられます。
出典・備考	株式会社レゾナック発行のSDS第2, 12項

8. ばく露 (EXPOSURE)

詳細	ばく露の可能性
作業者ばく露	<p>本製品は、十分に管理された閉鎖系・連続プロセスで使用されますが、作業において、メンテナンス、サンプリングおよび装置故障の際等に、作業者への経皮・吸入ばく露の可能性ががあります (PROC2)。</p> <p>バッチ及びその他のプロセスでの作業において、メンテナンス、サンプリング、充填、排出及び装置故障の際等に、作業者への経皮・吸入ばく露の可能性ががあります (PROC 4)。</p> <p>専用設備での船舶または大容量コンテナからの物質や調剤の移し替え作業 (例: 塵/蒸気/エアロゾルの発生、流出、装置の清掃) に伴い、経皮・吸入ばく露の可能性ががあります (PROC8b)。</p> <p>成形品への噴霧や加工に用いる作業により、作業者への吸入ばく露の可能性ががあります (PROC14)。</p>
消費者ばく露	本製品は、一般消費者にて直接使用されることはありません。
環境ばく露	<p>本製品は、通常、閉鎖系プロセスで製造・使用されるので、環境への排出は限られますが、製造工程で、主に大気及び水環境へ放出される可能性ががあります (ERC 1、7)。</p> <p>製造や調合工程での金属加工助剤として用いられ、主に大気及び水環境へ多く放出されやすいです。また土壌環境へも放出される可能性ががあります (ERC 4)。</p>
注意事項	他の用途におけるばく露の可能性がある場合、推奨するリスク管理措置を参考に適切な措置を実施して下さい。

9. 推奨するリスク管理措置 (RISK MANAGEMENT RECOMMENDATIONS)

推奨するリスク管理措置により、8項のばく露シナリオによる作業者、消費者および環境に対するリスクは、最小化可能と考えられます。

詳細	推奨するリスク管理措置
作業者	<p>技術的対策: 本製品は強い腐食性のある液化ガスであり、取扱い時には接触、吸入の防止のため、適切な保護具を着用し換気装置のある室内で取扱して下さい。また、作業場所から強酸化剤、強塩基、金属を遠ざけ、近くに、水道、シャワー、眼洗浄装置などを設置し、消石灰などの中和剤を備えて下さい (臭化水素の貯蔵場所の近くも同様)。</p> <p>局所排気・全体換気: 連続プロセスまたはバッチプロセスでの製造工程での取扱い時には適切な保護具を着用し、強制全体換気のある室内で取扱して下さい。製品の専用設備での移し替え、ガスの圧縮作業では、適切な保護具を着用し、局所排気装置の設置してある良好な全体換気の室内で作業して下さい。</p> <p>許容濃度 臭化水素については、ACGIH (米国産業衛生専門家会議) TLV-STEL C (短時間暴露限界、天井値) 2ppm が公開されています。この値を下回るように、管理・制御して下さい。</p> <p>保護具: 作業の際は、呼吸用保護具 (認可を受けた酸性ガス用防毒マスク (捕集率 95%以上のマスク))、および皮膚への接触を避けるため耐酸性ゴム製手袋 (APF20 (防護率 95%))、眼への接触を避ける</p>

	<p>ため保護メガネを着用して下さい。さらに、緊急時には上記に加えてエアラインマスクやホースマスクなどの送気マスク、自給式呼吸器、保護服、面体などの保護具を使用して下さい。</p> <p>保護具例</p> <p>呼吸用保護具：防毒マスク(酸性ガス用)(捕集率 95%以上)、陽圧の給気式保護具(送気マスク、自給式呼吸器)</p> <p>手の保護具：耐酸性ゴム製保護手袋(APF20 (防護率 95%))</p> <p>眼の保護具：保護めがね(間接通気形、密閉形)、面体(全面形)</p> <p>皮膚及び身体の保護具：耐酸性の保護服(簡易形、密閉形、送気形)、保護長靴</p> <p>注意事項： 作業責任者は、作業者に適切な保護具の選択や正しい使用方法、または作業現場の管理方法などの教育をして下さい。</p>
消費者	当社製品は、一般消費者にて直接使用されることはありません。
環境	流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意して下さい。漏洩防止策を講じ、定期的な排出量の確認、日常管理、取扱いに注意を払って下さい。
特記事項(漏出時の緊急措置など)	<p>人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置： ガスは重いので、低地を避けるように、直ちに周囲の人を避難させて下さい。漏洩場所に換気設備があれば、速やかに起動し換気して下さい。大量の漏洩が続く状況であれば、漏洩区域をロープ等で囲み部外者が立ち入らないように周囲を監視し、漏洩区域に入る場合は、陽圧自給式呼吸器とその他適切な保護具を着用して下さい。</p> <p>臭化水素自身は燃えることはありませんが、金属との接触で発生する水素に引火し、発火する可能性があります。火災によって刺激性、腐食性、又は毒性のガス及びヒュームを発生するおそれがあります。臭化水素は比重が重いので、火災には風上から粉末消火薬剤、水溶性液体用泡消火薬剤、二酸化炭素、砂、霧状水を使用することが効果的です。また、臭化水素に直接水をかけると腐食が促進される可能性があるので、水を使用する場合は、臭化水素の漏洩がないことを確認して下さい。</p> <p>環境に対する注意事項： 漏洩物および処理排液を直接河川や下水に流さないで下さい。漏洩容器には散水せず(漏洩の促進、腐食による漏洩傷口等の拡大を防ぐ)、汚染面を重炭酸ソーダまたはソーダ灰・消石灰混合物(50:50)で覆って混ぜ合わせ、必要な場合にはスラリー状にするため水を加え、スラリーをすくいとり回収して下さい。</p>
注意事項	通常での取扱い、緊急時対応、廃棄時、輸送時の管理措置は、株式会社レゾナック発行のSDSの4,5,6,7,8,13,14項を参照して下さい。

10. 政府機関のレビュー状況 (STATE AGENCY REVIEW)

有害性評価	レビュー状況
IPCS (国際化学物質安全性計画)	<p>国際化学物質安全性カード</p> <p>https://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.display?p_lang=ja&p_card_id=0282&p_version=2</p>
OECD (経済協力開発機構)	<p>高生産量化学物質(HPV chemicals)点検計画</p> <p>https://hpvchemicals.oecd.org/UI/Search.aspx</p>

NITE-CHRIP (NITE 化学物質総合情報提供システム)	https://www.nite.go.jp/chem/chrip/chrip_search/srhInput
政府によるGHS分類結果	https://www.nite.go.jp/chem/ghs/m-nite-10035-10-6.html

11. 法規制情報／GHS分類情報・ラベル情報 (REGULATORY INFORMATION／GHS CLASSIFICATION AND LABELLING INFORMATION)


法規制情報

適用法令	規制状況
労働安全衛生法	名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号別表第9) 臭化水素 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9) 臭化水素(政令番号:302)
毒物及び劇物取締法	劇物(法第2条別表第2) ブロム水素
消防法	貯蔵等の届出を要する物質(法第9条の3・危険物令第1条の10六別表2) ブロム臭素
船舶安全法	高压ガス・毒性高压ガス(危規則第2,3条危険物告示別表第1)
航空法	高压ガス・毒性高压ガス(施行規則第194条危険物告示別表第1)
港則法	その他の危険物・高压ガス(法第20条第2項、規則第12条、危険物の種類を定める告示別表)
道路法	車両の通行の制限(施行令第19条の13、(独)日本高速道路保有・債務返済機構公示第12号・別表第2)
高压ガス保安法	液化ガス(法第2条3)、毒性ガス(一般高压ガス保安規則第2条2)
水道法	有害物質(法第4条第2項)、水質基準(平15省令101号)
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)	通知対象物質ではありません
国連分類	2.3
国連番号	UN1048 HYDROGEN BROMIDE, ANHYDROUS

GHS 分類情報

物理化学的危険性	高压ガス 液化ガス
健康有害性	急性毒性(吸入:気体) 区分 3
	皮膚腐食性/刺激性 区分 1
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 区分 1
	特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分 1
	特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分 1

ラベル情報

絵表示又はシンボル	
注意喚起語	危険

危険有害性情報	高圧ガス:熱すると爆発のおそれ (H280) 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷 (H314) 吸入すると有毒 (H331) 臓器の障害 (呼吸器系) (H370) 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害 (呼吸器系、歯) (H372)
---------	--

12. 連絡先 (CONTACT INFORMATION)

会社名	株式会社レゾナック
住所	神奈川県川崎市幸区大宮町 1310 ミュージア川崎セントラルタワー23 階
担当部門	情報電子化学品事業部 ファイン製品部
電話番号 / ファックス番号	044-520-1362 / 044-520-1366

13. 発行・改訂日、その他の情報 (DATE OF ISSUE / REVISION, ADDITIONAL INFORMATION)

発行日: 2022年12月27日

改訂:

改訂日	改訂項目	改訂箇所	版
2023年 1月 1日	3,5,6,7,9,12,13	社名等変更	rev.2

記載の情報は、2023年1月1日 改訂版の安全データシート(SDS)に基づいています。

その他の情報: 毒物及び劇物取締法における毒物劇物営業者の法人名称及び本社住所
(製造業者) 株式会社レゾナック 東京都港区芝大門 1-13-9

14. 免責条項 (DISCLAIMER)

安全性要約書は、化学産業界の自主的化学品管理の取組み(GPS/JIPS: Japan Initiative of Product Stewardship)の一環として作成されたものです。安全性要約書の目的は、対象品に関する安全な取扱いに関する情報を概要として提供することであり、リスク評価のプロセス及びヒト健康や環境への影響などの専門的な情報を提供するものではありません。また、安全データシート(SDS)や化学品安全性報告書(CSR)などのリスク評価に代わる文書として作成されたものではありません。本安全性要約書は、発行時点で入手可能な法令、資料、情報等のデータに基づいて、できる限り正確な記載に努めておりますが、すべてのデータを網羅したわけではありません。また、いかなる保証をするものでもありません。